

鹿児島大学サテライトラボを設置

4月22日(火)、サーキュラーパーク九州(株)内にサーキュラーエコノミー実証事業拠点(鹿児島大学サテライトラボ)が設置され、除幕式が行われました。

この拠点は、混合・複合プラスチック製品のケミカルリサイクルなどの実証事業が行われ、今後も企業や地域が抱える社会課題について研究が行われます。



「まちの話題」に投稿ください。

まちの話題は、市民の皆さんからいただいた情報により、身近な話題を掲載しています。皆さんからのたくさんの投稿お待ちしております。



投稿方法

①タイトル(11文字程度) ②本文(140文字程度)
③投稿者名 ④連絡先 ⑤写真1枚~3枚
を添えて、秘書広報課までメールで投稿ください。
メールアドレス／koho@city.satsumasendai.lg.jp

※内容やスペースの都合により掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

蜂蜜が採れたよ

4月28日(月)、水引こども園で、蜂蜜搾り体験を行いました。

川薩養蜂組合をはじめ多くの関係者のもと行い、園児や保護者など約40人が参加し、女王蜂や働き蜂の役割、1匹から採れる蜂蜜の量などを教わりながら、遠心分離機を使って蜂蜜搾りを体験しました。搾りたての蜂蜜を味見した子どもたちは「甘くてとてもおいしい、また体験したい」と笑顔になっていました。



【情報提供：水引こども園】

子どもの読書推進活動が評価されました

5月2日(金)、おじやはんか入来かたいもんそ会が、令和7年度子供の読書活動優秀実践団体として文部科学大臣表彰の受賞報告のために表敬訪問されました。

これは、広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めることを目的に実施されており、同会の方言を使用した活動や昔話を紙芝居にして実演するなどの活動が評価されました。



写真集を子どもたちへ

5月1日(木)、薩摩川内おどり太鼓から写真集の寄贈がありました。

この写真集は、イベントなどで活動している様子がたくさん収められており、未来を担う多くの子どもたちに見てもらいたいと寄贈されたものです。各小中義務教育学校へ配付し、大切に活用します。



寺山でこどもの日を満喫

5月5日(月)、少年自然の家とせんだい宇宙館で寺山こどもの日フェスタを開催しました。

当日は多くの親子などが来場し、特別企画の大型エア遊具や肥薩おれんじ鉄道(ミニトレイン)、こいのぼり釣りゲームなどの体験活動を楽しみました。



「人のとなりに」とは…
文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。

平成14年に地域を守る本市の消防団に初めて女性団員が入団してから23年。令和7年4月、その発足から女性消防団に携わってきた団員の1人が、県内初の消防団長に就任しました。今回は、これまで築いてきた女性消防団の活動や、これからの消防団への思いに寄り添います。

宮里 英子さん

薩摩川内市消防団 Instagram

試行錯誤の活動

入団当初、右も左も分からず、女性消防団員として何をすればいいのか、何ができるのか、仲間と集まる中で不安だらけだったといいます。

「入団した以上は、規律を正し、女性たちでできることを確立して、目標を持ってやり続けた。だから、女性消防団の知名度を上げるために地域のイベントには何でも参加した」と話します。他にも、他市町村の活動発表会に参加したり、研修を受けたりしたそうです。「他の団の活動発表を見たときは、その活動内容に衝撃を受けた。自分たちにも何かできることがあるはず」と女性だからこそできることを

重圧をやりがい

宮里さんは、消防団長に就任しましたが、その裏にはプレッシャーや悩みもあったそうです。「周りから、団長として頑張っ

まずは自分自身を守る

防災に関する広報活動も行っている宮里さんは、いざというときのためには、「備え」が大切だと話します。

「全国各地で異常気象による自然災害や、森林災害も増えているが、ニュースを見て俯瞰しない、自分事だと思ってしまう。物資だけでなく、心も備えることで災害に対して構えることができる。日頃からの情報収集や、自分なりのリラックス方法を知ること、定期的に非常用持出袋を確認するなどできることから始めてほしい。そのために、防災に関する豆知識や便利なアイテムなども伝えていきたい」と日頃の備えの大切さを教えてくれました。

恐れず飛び込んだ消防団

「平成14年、女性の消防団員を募集するので入らないかと勧誘があった。当時消防に関する知識など全くなかったが、夫が消防団に所属しているため、消防団への理解は少なかった。不安よりも、自分がすることは何かという前向きな気持ちがあった」と話すのは、令和7年4月に県内で初めて女性の消防団長に就任した宮里英子さん。女性の消防団員の採用を開始した当初、入団したのは7人だったと話します。

することを手探りで考えた」と話します。衣装や紙芝居を手作りして、幼稚園や保育園で防火に関する劇や避難時を想定した炊き出し訓練をするなど、火災や防災に関する広報活動を行ううちに、消防団に女性がいることを少しずつ皆さんに知ってもらうことで、認めてもらうことができたそうです。「消防団として、女性ならではの視点で活動することができ、励ましの声を掛けられるとうれしい」と話します。

親しみを持ってもらい、入団してもらえよう、時代に合わせたやり方で活動できるようにしたい」と話します。形にとらわれない消防団を作るため、チャレンジ精神を大切にしていききたいそうです。